

太平洋戦争 74年 開戦

各地で戦争法反対訴え

アジア・太平洋戦争開戦から74年となる8日、各地で戦争法の廃止などを訴える集会や宣伝が行われました。

■岐阜 早

岐阜県母親大会連絡会は、県内8カ所で87人が参加し、「赤紙」(召集令状)の配布とリレートーク、学習会など旺盛に取り組みました。

各統戦線駅前では、戦争法廃止を求める署名宣伝を行い、リレートークしました。飛び入り参加の25歳の青年が「祖父母がつくってくれた平和な日本を、安倍政権の暴走で戦争に導こうとして

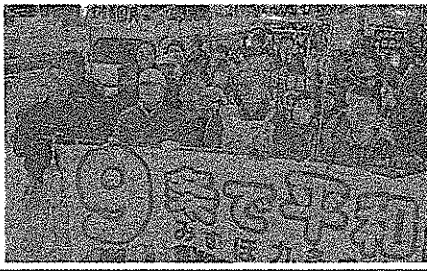


戦争法廃止の署名にたずねる通行人8日、各統戦線駅前

■名古屋 古屋

名古屋市内の七つの九条の会が「第10回平和のともしびウォーク」を行い、350人が参加しました。

参加者は4コースから合流地点の今池西公園(今池区)へ向け、手づくりの「ともしび」を手に持ち「海外派兵反対」「民主主義を守れ」と声をあげて行進しました。



平和を願い行進する人々8日、名古屋市内

■三重 三重

三重県では県母親大会連絡会などが各地で宣伝行動に取り組み、召集令状の「赤紙」を模したヒラを配布しながら「戦争法を廃止に」「誰の子とも殺させない」などを訴えました。

津市の近鉄津駅前では、県平和遺族会のメンバーも加わった13人が宣伝行動を展開。赤紙には市民の注目を集め、立ち止まって自身の戦争体験や平和の大切さなどを話し込んでいく高齢の男性もいました。

■富山 山

富山県革新懇など4団体が「反戦平和のつどい」を富山市内で開きました。戦時中にも今の北朝鮮の羅津(らしん)にいた樋口尚さんが戦争体

せよう」と述べました。参加者らは沖繩への連帯の思いを込め、「島唄」を聴きながら、二重とあの「暗い戦争の時代」を振り返り、「はいけい」としてアピール文を採択しました。

■石川 川

石川憲法会議など7団体は、金沢市で「12・8平和を守るつどい」を開催し、約40人が参加しました。石川憲法会議の東孝二代表は「再び戦争を許さないために、しっかり学びましょう」とあいさつしました。

金沢大学の小林信介准教授は「先の大戦をどう考えるか」と題して講演しました。「太平洋戦争」という呼び方は「対米戦争だけに矮小(わいしょう)化される恐れがある。日中間の歴史認識の隔たりの大きな原因となっている」と指摘し、「太平洋戦争の前にアジアと付け合えなかった」と述べました。

■新潟 潟

憲法を守る新潟県共同センターと県母親連絡会は、新潟市で30人以上が参加して街頭宣伝を行いました。参加者が「赤紙」ヒラを配布。佐藤一弥憲法センター代表が「戦争法を廃止する政権がどうしても必要だ。地域・職場から声を広げ、参院選で野党共同の統一候補実現による統一候補実現しよ

■福井 井

福井県母親大会連絡会は、平和のつどいを福井市で開き、30人余りが戦争を振り返る思いを交流しました。県内で空襲記録運動などを続ける、ゆきの

した文化協会の会長である荒川勝巳さん(89)が戦争末期の福井市民の暮らしについて、史料を示しながら話しました。紹介したのは、当時の福井市内にあった隣組の班長の手帳の記録などで、国民が地域の間組を通じて上意下達で戦争に協力させられ、生活物資購入を制限する配給や、国債購入と貯蓄、防空の任務などを強いられていた実態を生々しく示すものでした。荒川氏は、地域からの退出が禁止され、防空義務違反には罰金が科された当時と、原子力防災計画の住民避難対策の将来を重ね、鐘を鳴らしました。「戦争体験を継承する」とは学ぶこと。学びは真実を胸に刻むことです。このへ、憲法を守る。いっそうのたたか